



NEWSLETTER

1988. 12 No.3

〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 電話(045)481-5661(代) 神奈川大学外国語研究センター

サラマンカ大学夏期講座について

大林 文彦

私は今年度サラマンカ大学夏期語学研修に参加した本学研修生を引率・同行したが、昨年に学術協定を結んだサラマンカ大学の、この夏期講習について、以下に紹介したい。

さて、このヨーロッパの名門校（1218年創立）の夏期講習は、1963年より開設されており、今年で満25年になるのだが、正式な名称は同大学国際コースであり、通常7月から9月の三ヶ月間、各一ヶ月単位で開講されるものである。この内、8月がもっとも多くの受講生が集まってくる。受講

生は、ヨーロッパ各国とアメリカが主で、それに最近では日本からも参加するようになってきた。

この夏期講習の内容についてであるが、スペイン語・スペイン文化に関する諸コースは、大別すると、三つのコースに分けられる。即ち、初心者向けのコースと中級者向けのものと上級向けのそれである。初心者向けのコースは、スペイン語・同文化コースとスペイン語コースとがあり、この二つのコースとも内部でさらに、初級から上級まで、受講者のレベルに応じた小人数の諸クラス

に分けられている。本学の学生たちが受講したのは、これらのコースである。

上級向けのコースとしては、スペイン語教員のためのコースと、スペイン言語学高等コース (Curso Superior de Filología Española) とがある。前者は、スペイン語教授法・文法の諸問題はもちろん、スペイン言語地図・現代政治・文化の諸問題をも含む高度な内容を各専門家が扱うものである。

後者は、今年度は7、8月に開講され、月当たり60時間、週15時間の構成となっていた。内容は、各週ごとに1テーマをめぐる講義と討論であり、ちなみに8月のテーマは、「ブニエール・ダリ・ロルカ・アルベルティ：スペイン・シュルレアリズムの一章」、「フーリオ・コルターサル」の文学作品」、「19世紀末小説におけるガルドス」、「15世紀の冒険と紀行に関する叙述」の四つであった。このコースは、由緒ある大学本館内の、サラマンカと深く結ばれた哲人ミゲール・デ・ウナムーナを記念した講堂で開講され、受講料は、一ヶ月約4万2千円、一週間なら約1万4千円である。

例えば、「コルターサルの文学作品」の場合を見てみると、スペイン国内の専門家・研究者をはじめ、S・ユルキエヴィチ（パリ大学）、J・アンドルー（トゥルーズ大学）やM・ベネデッティ（作家）などの著名な人々が、各2回ずつ講演と討論を行い、内容の濃い、教えられる所の多い時間であった。

夏とは言え、朝は肌寒いなかを底冷えのする講堂で講師を待ち受けてから、6、70名の熱心な受講生とともに、こうした時間を享受するのは、一つの快楽と言えるだろう。サラマンカ大学の学寮は、この間、受講生に解放され、四週間の料金が個室・三食付で約4万9千円である。ヨーロッパからの年配の人々などが、ヴァカンスがてら学寮に滞在し、いずれかのコースに通い、われわれや若い人たちと交流している姿もよく見られた。

専門家でなくても、こうした場所、こうした機会に、スペイン文化・スペイン語を学ぶのもひとつの望ましい方法と思う。中世の雰囲気をよく保っているサラマンカは、じつに格好の環境を提供してくれている。
